

《ブロッコリー、カリフラワー、ニンジン、秋植えジャガイモ》

梅雨明けから旧盆頃までは年間でも最も気温の高い時期ですが、ブロッコリーやカリフラワー、にんじんなど秋冬野菜の播種・定植適期になります。夏から秋にかけて播く野菜は品目ごとに栽培地に応じて播種や植え付けの適期が狭い場合が多く、適期より遅れると貧弱な物しかとれないので適期を守るよう心掛けて下さい。

ブロッコリー・カリフラワー

- ・ 食用部分=若い蕾
- ・ 大きなものを収穫するのに必要なこと
 - ① がっちりした大きな若苗を植える
 - ② 植え付け後は肥料を切らさない
 - ③ 外葉をできるだけ大きくする
- ・ 定植前の準備
苗の植え付け 1 週間前までに、
a) 苦土石灰 100g/m² b) 完熟堆肥 2kg/m² c) 化成肥料 200g/m²
を施要して土とよく混ぜて、畝を立てておきます。
- ・ 土の pH が低いと根こぶ病が発生しやすい
⇒ pH が低い場合は苦土石灰を増量する
- ・ 重要：栽培時期にあった品種の選択
ブロッコリーやカリフラワーはある程度の大きさに達した苗が低温に感応することにより花芽ができます。
ブロッコリーには極早生から晩生の品種までありますが、晩生の品種になるほど大きな苗でないと低温に感応せず、花芽ができるために必要な温度が低くなり、花芽分化に必要とする低温の量も多くなります。

ブロッコリーの品種と花芽分化の条件（一定温度での状態）の目安

早晚生	必要な低温の程度	必要な苗の大きさ (最低限播種後日数)	展開葉数	必要な低温の期間
極早生種	20-23℃	小(20-35 日以上)	7-8 枚	短(30 日以上)
早生種	17-18℃	中(35-40 日以上)	7-8 枚	中(40 日以上)
中生種	12℃前後	中(35-40 日以上)	10-12 枚	中(40 日以上)
晩生種	5℃以下	大(40 日以上)	12-15 枚	長(50-60 日以上)

・花蕾の発育も同傾向。

・小苗ほど低温期間必要、大苗ほど期間が短い。 (タキイ種苗資料)

・ 苗の植え付け時期

極早生：8月中旬～9月上旬

中 生：8月下旬～9月中旬

晩 生：9月上中旬

・ 定 植

本葉 4～5 枚くらいの苗を株間 40cm で。

(注意) 葉を食べる虫の活動が盛んな時期ですので防虫ネットや寒冷紗などを張り、葉の食害防止に努めます。

・ 追 肥 (化成肥料を株間に 80g/1 m²程度)

1 回目：活着 10 日頃

2 回目：1 回目の追肥から 20 日頃に追肥します。

極早生の品種だと 12 月には収穫できるでしょう。

《ポイント》

キャベツやはくさいなどを大きく結球するために重要なことは！

⇒ 外葉(下葉)を大きくすること！

そのためには、気を付けること。

① 苗の植え付け後の活着を順調に行わせる

② 定植後の肥効を切らさないようにし、10～15 日後、30 日前後に追肥！

③ 虫による葉の食害を防ぐ

にんじん

中央アジア原産で、冷涼でやや乾き気味の条件を好みます。
 播種から収穫まで4か月ほどかかります。
 年末に収穫するには8月中旬までに播種する必要があります。

・定植前の準備

播種の2週間ほど前に、

a) 苦土石灰 100g/m² b) 堆肥 2kg/m² c) 化成肥料 200g/m²

土と良く混ぜます。

土との混ぜ方が不十分だと、部分的に肥料濃度の高い場所ができることがあり、岐根の原因になります。

《栽培のポイント》

発芽と初期生育をスムーズに行わせる。

- ① 土が乾いている場合は播種前に灌水して土を湿らせておきます。
- ② 発芽に光が必要 ⇨ **覆土は薄目**
- ③ 発芽するまでの10日、**土を乾かさない**ように気をつける
- ④ 発芽までの間に土が乾きすぎたり覆土が厚すぎると発芽しなかったり生育のばらつきにつながります。
- ⑤ **ガーゼや日本手拭で種子を包み半日ほど水を掛け流し十分に吸水させた種子をプラスチック袋に入れ冷蔵庫に10日ほど置き、根が出始めた種子を播くと揃って良く発芽します。発芽後も土の極端な乾燥は避けるように気をつけます。**

初期の栽培

1) 本葉が3枚頃に1回目の間引きを行う。

この時に、化成肥料を1m²に70g/m²程度追肥

2) 本葉7枚頃に2回目の間引きを行う。

この時に、化成肥料を1m²に70g/m²程度追肥

※生育が進んで地下部の肩部分が地表から露出するようなことがあれば、株元に土寄せをして地下部に太陽光が当たらないようにする。

にんじんやだいこんなど地中で根が肥大する野菜の栽培の注意点

まっすぐで大きな根を収穫するため

⇨ 根が地中に素直に伸びていけるように、播種前に土をよく耕して柔らかくしておくことが必要です。

さらに元肥施用後も1~2回は耕起して土と肥料を良くなじませておく。
 根の先端が硬い土や石、高い濃度の肥料に接すると岐根しやすくなる。

秋植えじゃがいも

じゃがいもは2月に植える栽培が一般的ですが、8月下旬～9月上旬に植え、霜が降りるまで生育させて収穫する栽培もできます。

晩夏植え・秋作のポイントは3つ

① **植え付け適期を守る。**

- a) 植え付けが早過ぎる ⇨ 土中で腐ったり病害が発生しやすい
- b) 植え付けが遅い ⇨ 寒さで地上部が枯れる
いもが十分に肥大できず収量が少ない

② **秋作に適した品種を使う。**

早生で休眠の浅い品種を使う。

デジマ、ニシユタカ、西海31号、アンデスレッドなど

③ **種いもは切らずに植えます。**

地温が高いときに植えるので、切って植えると切り口から腐敗し易い
<種いもを買う場合>

握り拳の1/2～1/3の大きさのいもの多い袋にすると良いでしょう。

<病 気>

土のpHが高いと「**そうか病**」という病気が発生しやすくなるので、石灰資材は投入しないで栽培します。

<その他>

春夏野菜の栽培を終え秋野菜の播種・植え付けまで日数がある場合は、**太陽熱消毒**を行うと良いでしょう。

湿らせた土の上から透明または半透明のビニルをかけ、ビニルの周囲にはすき間なく土を被せます。

この状態で半月から1か月放置し、太陽熱を利用して土中の病害虫や雑草種子を熱で殺します。

時間はかかりますが、安全な消毒方法です。

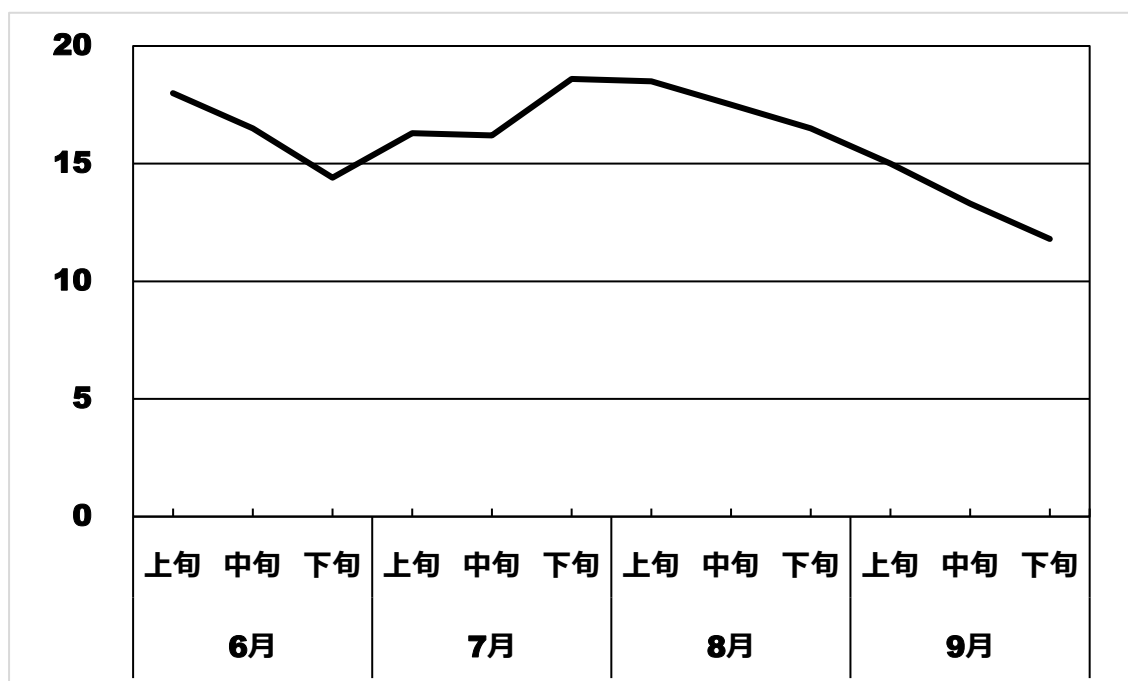
秋冬野菜の育苗と初期管理

○8月の重要な管理項目（害虫対策等）

- ・旧盆過ぎからは朝夕の気温が盛夏期よりもやや低下し、真夏に夏バテ気味だった野菜類にとっては次第に生育に適した気温になり再び順調に生育するようになります。
- ・ナスやミニトマトには化成肥料を追肥すると10月頃まで収穫できます。
- ・梅雨明けからの高温により数が一時的に減少していた害虫も気温の低下とともに再び10月にかけて発生しやすい条件になります。
- ・8月から9月にかけては気温もまだ高いので、発生初期に登録のある薬剤を散布したり、捕殺して早期防除に努めます。

○代表的な秋冬野菜の種播き、定植時期

- ・秋冬野菜の栽培期間を見ると次第に気温が低下し太陽光の量も少なくなってくるので、収穫したい時期に適した品種をそれぞれの品種ごとの適期に播種し、適期に定植することが非常に重要です。
- ・気温が高い間に十分に生長させておくとスムーズに生育が進みます。



全天日射量の旬別推移(大阪、単位: MJ/m²)

- ・ハクサイなどの葉菜類は旧盆を過ぎる頃からポット苗が出回りますので、家庭菜園での少量の栽培ならそれを購入するのが簡単です。

- ・生育初期は気温が高いので害虫も多く発生します。
ヨトウムシ、バッタ、コオロギ、シンクイムシ、アオムシなどが発生しやすいので発生初期に防除します。
- ・密植すると、小さな物しか収穫できなかつたり風通しが悪くて病害が発生しやすくなるので、**密植を避けます。**

ハクサイ

地中海沿岸が原産地で、日本に伝わったのは日清戦争で中国に出征した兵士が持ち帰ったのが最初とされています。

キャベツが西洋の葉菜の代表とすれば、ハクサイは東洋の代表といえるでしょう。

キャベツよりも葉が柔らかく味もクセが無く、最近では欧米でも人気の野菜となっています。

生育適温	15～20℃前後でやや冷涼な条件を好む
品種 (播種から収穫までの日数)	極早生：60日程度 晩生：90日程度 ※家庭菜園では極早生から中早生くらいまでの品種を選ぶと良いでしょう。
植え付け前	苦土石灰 100g/m ² 堆肥 2kg/m ² 化成肥料 150g/m ² 程度 } を土にすき込み、 畝立てしておきます
播種時期	8月中旬から9月上旬 1)株間40cm程度の間隔で直まき または、 2)9cmポリポットで育苗 ※ポット育苗の場合、1か月ほどして本葉が5-6枚程度の苗を定植します。 (9月上旬～下旬)

- ・ハクサイはある程度の枚数の葉が十分に肥大すると内側の葉が次第に立ちはじめ結球していきます。
このため、**生育初期に葉を十分に大きくする**ために肥料切れさせないように注意しながら栽培します。
- ・生育初期に、肥料切れや虫害などで葉数が少なくなると結球が遅れたり最悪の場合には結球しないことがあります。

- ・虫除けネットを張りアオムシ、シンクイムシ等の食害を防止し、葉数と葉の大きさの確保に努める必要があります。
- ・ハクサイの根は繊細でしかも地表近くに多く張る傾向にあります。定植後に雨が少ない場合は数日に一度十分に水やりをして活着を促します。
- ・定植後2週間程度経てば株元に化成肥料を1-2つまみ与えて肥料切れさせないようにします。

キャベツ

日本に伝わったのは幕末で、現在では年間を通して国内で栽培されている重要な野菜の一つです。

栽培時期に応じて多数の品種が育成されていますが、秋から春にかけては平地での栽培適期で、特に秋作は栽培しやすい時期の栽培になります。

発芽適温	15～25℃
生育適温	20～25℃とやや冷涼な条件を好む
植え付け前	苦土石灰 100g/m ² 堆肥 2kg/m ² 化成肥料 150g/m ² 程度 } を土にすき込み、 畝立てしておきます
播種時期	年内取りの場合 播種：7月中下旬 定植：8月下旬、苗を30～40cm間隔で

ハクサイと同じく、ある程度の枚数の葉(18～20枚程度)が十分に肥大すると次第に若い葉が結球態勢に入ります。

このため、結球開始期までに肥料を効かせて大きくて充実した外葉を確保すると大玉が収穫できます。

結球適温は13～25℃前後で、28℃以上や3℃以下の気温条件では結球はほとんど進行しません。

ブロッコリ

近年、人気が増している野菜の一つです。

極早生～晩生までの品種があり、収穫したい時期に合わせた品種を適期に種まきし、定植する必要があります。

	播種時期	定植時期	収穫開始時期
極早生	7月中旬まで	8月下旬まで	11月～
早生	7月下旬～8月中旬	9月上旬まで	11月後半～12月
中晩生	8月上旬中旬	9月上旬中旬	12月～2月

定植前	苦土石灰 100g/m ² 堆肥 2kg/m ² 化成肥料 150g/m ² 程度	土にすき込み、畝立てしておきます
定植	株間 40cm 程度	
追肥	1回目：活着して1週間後頃 2回目：1回目の3週間後頃	

食用にする部分は若い蕾です。

大きな蕾を着けるには生育初期から肥料を効かせて茎が太くなるように育てる必要があります。